

## 第2章 地域の概要

### 1. 位置及び地勢

別府市は、九州の北東部、瀬戸内海に接する大分県の東海岸のほぼ中央に位置し、東西に13km、南北に14kmで、面積125.34km<sup>2</sup>を有しています。南は野生のニホンザルで有名な高崎山をへだてて県都大分市と隣接、北は県北・国東テクノポリス地域としてハイテク関連企業が進出する国東半島の市や町と接し、西は阿蘇国立公園に属する由布岳、鶴見岳の連山を中心に南北に半円形に連なる鐘状火山（トロイデ）に囲まれその裾野がなだらかに波静かな別府湾に続く扇状地です。

市内には、古くから「別府八湯」と呼ばれる温泉群が点在し、2千2百を数える源泉から湧出する温泉は、毎分8万7千リットルにも及び、医療、浴用等々、市民生活はもとより観光、産業面にも幅広く利用されています。

図 2-1-1 別府市の位置



## 2. 気象

本市は瀬戸内海型気候に属し、平成 22 年～令和元年における年平均気温は摂氏 17.4 度であり、温暖な気候です。

年間降水量は、1,300mm～2,300mm の間で推移しており、平成 22 年～令和元年における年間平均降水量は 1,800 mm となっています。

表 2-2-1 気象概要（令和元年） 観測所：大分気象台

月	気温（℃）			平均 相対湿度 （%）	降水量（mm）		
	日平均 ○	最高 ●	最低 ▲		合計	日最大	1 時間 最大
1 月	7.7	16.4	-0.1	65	35.5	19.5	1.5
2 月	8.7	20.9	-0.4	70	87.0	19.5	7.0
3 月	11.5	26.7	1.7	65	189.0	70.0	10.0
4 月	14.8	25.7	3.7	69	84.0	23.0	6.5
5 月	20.0	32.2	7.9	65	69.0	26.5	18.0
6 月	22.9	30.8	16.6	77	236.5	40.0	31.0
7 月	25.7	34.6	20.0	85	353.0	60.5	21.5
8 月	27.2	35.9	18.8	81	382.0	93.0	26.5
9 月	25.5	33.3	16.5	79	98.0	25.5	9.5
10 月	20.8	32.2	11.8	74	107.5	11.0	4.0
11 月	14.3	23.9	5.0	70	18.5	10.0	3.5
12 月	9.9	19.8	1.8	72	93.0	28.0	9.5

資料：「気象庁 電子閲覧室」気象庁ホームページ

図 2-2-1

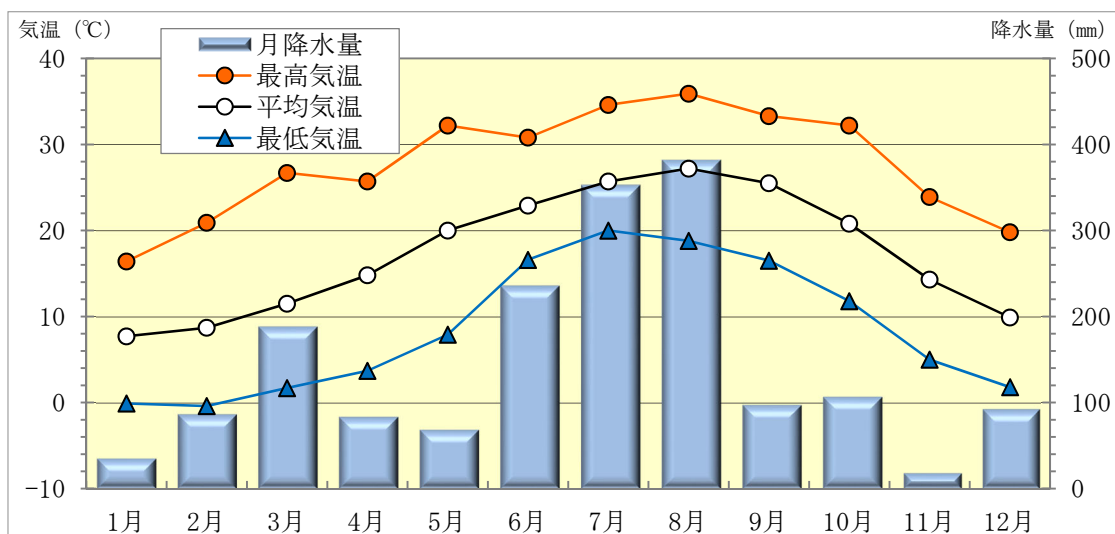


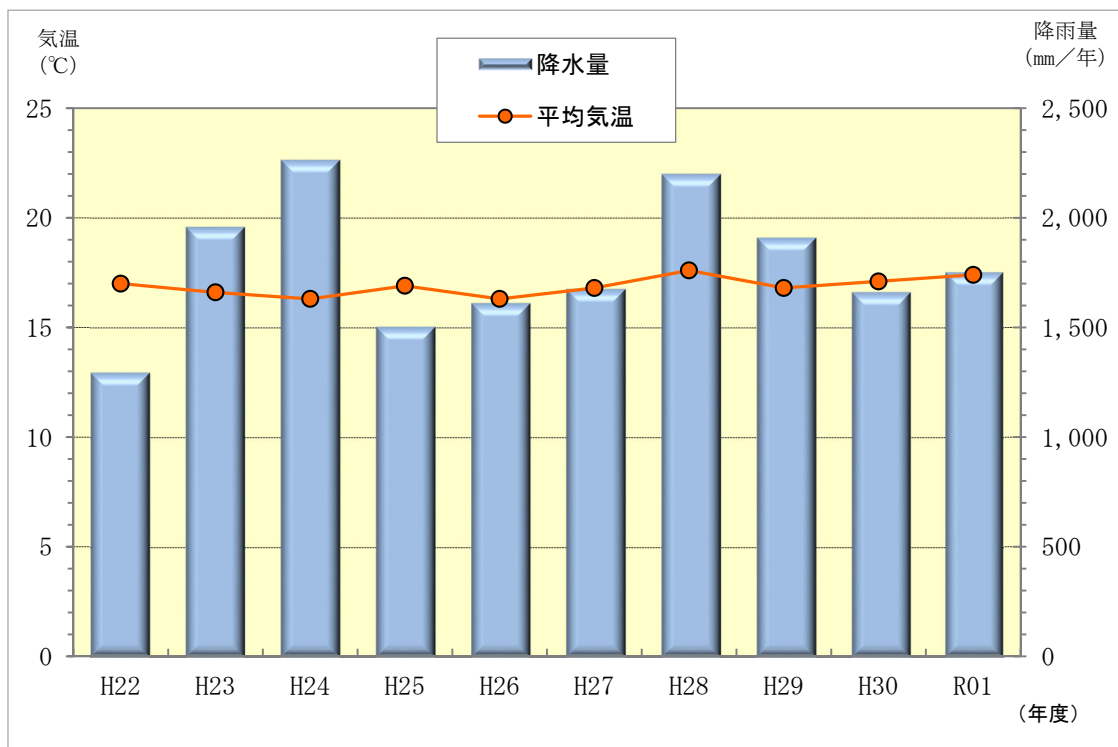
表 2-2-2 気象の経年変化

観測所：大分気象台

年度	気温 (°C)					平均 相対湿度 (%)	降水量 (mm)		
	平均 ○	平均		最高	最低		合計	日最大	1時間 最大
		日最高	日最低						
H22	17.0	21.4	13.2	36.8	-1.5	66	1,298.0	74.5	25.5
H23	16.6	20.9	12.8	35.3	-3.1	66	1,959.5	235.0	38.5
H24	16.3	20.5	12.6	35.2	-3.6	67	2,263.5	155.0	53.0
H25	16.9	21.4	12.9	37.8	-1.6	69	1,505.5	143.0	57.0
H26	16.3	20.5	12.5	35.5	-1.5	71	1,613.0	133.0	25.0
H27	16.8	20.9	13.2	35.5	-1.8	71	1,677.5	90.5	22.0
H28	17.6	21.8	13.9	36.5	-3.6	72	2,199.0	177.5	48.5
H29	16.8	21.1	13.0	37.0	-2.4	70	1,910.0	281.0	60.0
H30	17.1	21.4	13.2	37.3	-3.5	72	1,663.0	236.5	41.0
R01	17.4	21.7	13.6	35.9	-0.4	73	1,753.0	93.0	31.0

資料：「気象庁 電子閲覧室」気象庁ホームページ

図 2-2-2 気象の経年変化



### 3. 人口

本市の国勢調査における人口は、昭和40年に119,000人程度であり、昭和55年までは増加傾向を示し136,500人程度となりましたが、その後減少傾向となり、令和元年には118,499人となっています。

平成28年以降は、自然動態、社会動態共に減少傾向が続いています。

世帯数は、核家族化や高齢者の1人暮らしの進行により、平成22年まで増加していましたが、平成27年以降は、ほぼ横ばいで推移しています。

1世帯当たりの人員は、昭和40年の3.64人から令和元年の2.13人にまで減少しています。

平成27年における年齢構造をみると、年少人口（0～14歳）は11.1%（平成22年：11.4%）、老人人口（65歳以上）は、31.7%（平成22年：27.8%）であり、少子化及び高齢化が進行しています。

大分県全体及び全国と比較しても、高齢化の進行が早くなっています。

表 2-3-1 人口及び世帯数の推移

年次	人口（人）			世帯数 （戸）	世帯人員 （人/戸）●	増加人員 （人）	増加率 （%）
	総数	男	女				
昭和40年	118,938	52,977	65,961	32,709	3.64	—	—
昭和45年	123,786	54,687	69,099	37,987	3.26	4,848	4.1
昭和50年	133,894	59,967	73,927	44,171	3.03	10,108	8.2
昭和55年	136,485	61,521	74,964	48,532	2.81	2,591	1.9
昭和60年	134,775	60,753	74,022	48,844	2.76	-1,710	-1.3
平成2年	130,334	58,431	71,903	49,814	2.62	-4,441	-3.3
平成7年	128,255	57,376	70,879	51,453	2.49	-2,079	-1.6
平成12年	126,523	56,905	69,618	52,877	2.39	-1,732	-1.4
平成17年	126,959	57,392	69,567	55,108	2.30	436	0.3
平成22年	125,385	56,868	68,517	56,070	2.24	-1,574	-1.2
平成27年	122,138	55,482	66,656	55,624	2.20	-3,247	-2.6
令和元年	118,499	53,769	64,730	55,647	2.13	-3,639	-3.0

「資料：国勢調査（各年10月1日現在）令和元年は推計人口」

図 2-3-1 人口及び世帯数の推移（国勢調査）

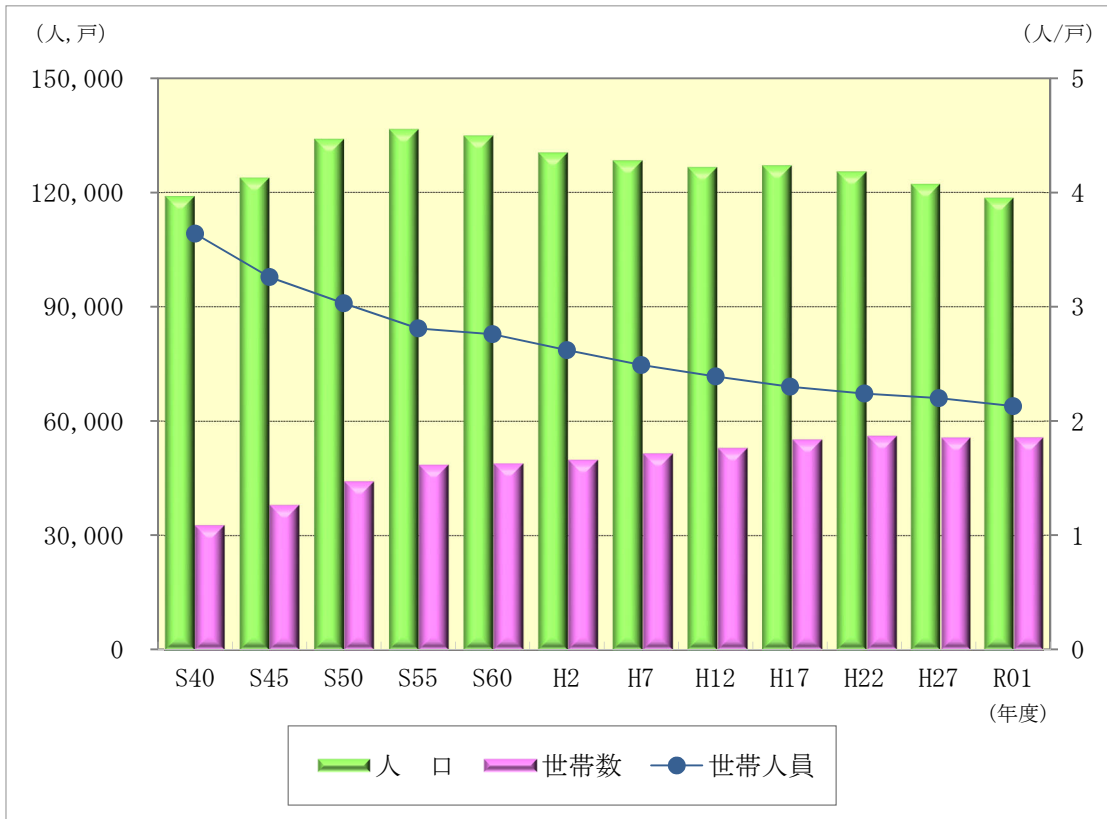


表 2-3-2 人口動態の状況

年	自然動態 (人)			社会動態 (人)			増加数 (人)
	出生	死亡	増加数	転入	転出	増加数	
平成 28 年	822	1,463	-641	5,284	5,560	-276	-917
平成 29 年	803	1,500	-697	5,233	5,512	-279	-976
平成 30 年	794	1,597	-803	5,456	5,493	-37	-840
令和 元年	714	1,598	-884	5,515	5,753	-238	-1,122

(資料：別府市市民課)

図 2-3-2 人口動態の状況

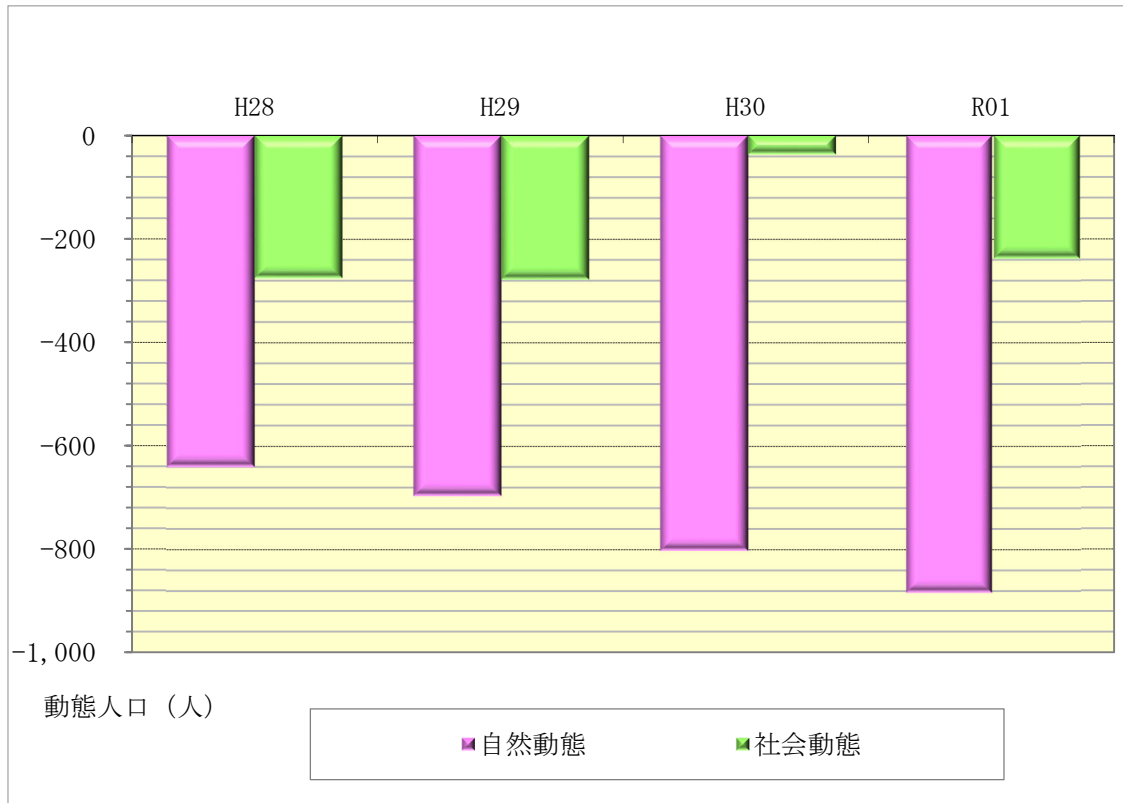


図 2-3-3 年齢3区分別人口割合の推移（国勢調査）

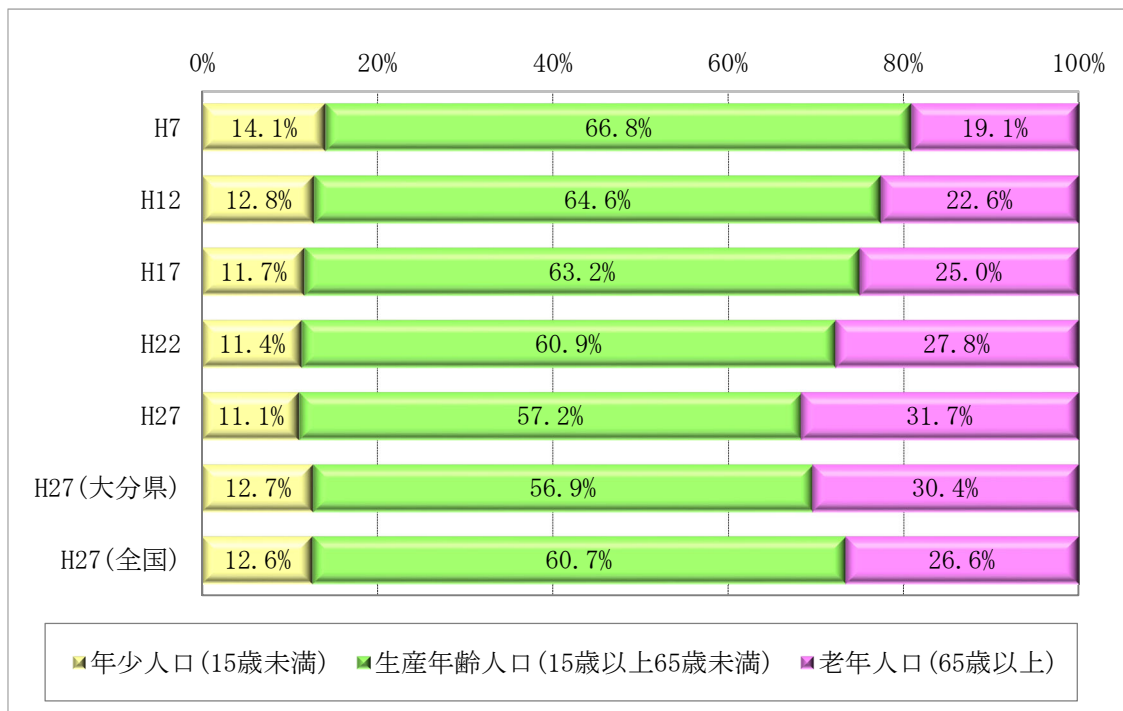
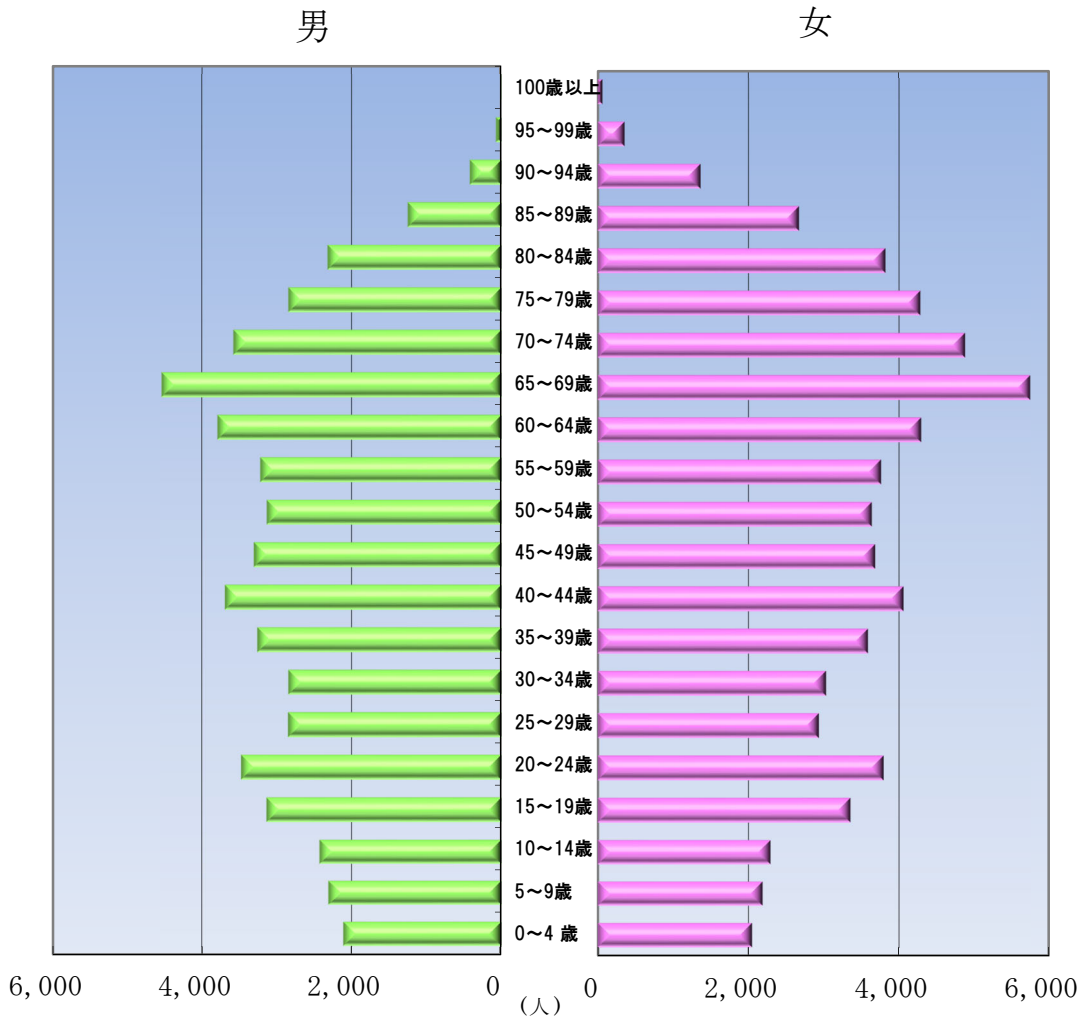


図 2-3-4 年齢別人口構成（平成 27 年国勢調査）



#### 4. 産業の動向

##### (1) 産業別就業人口

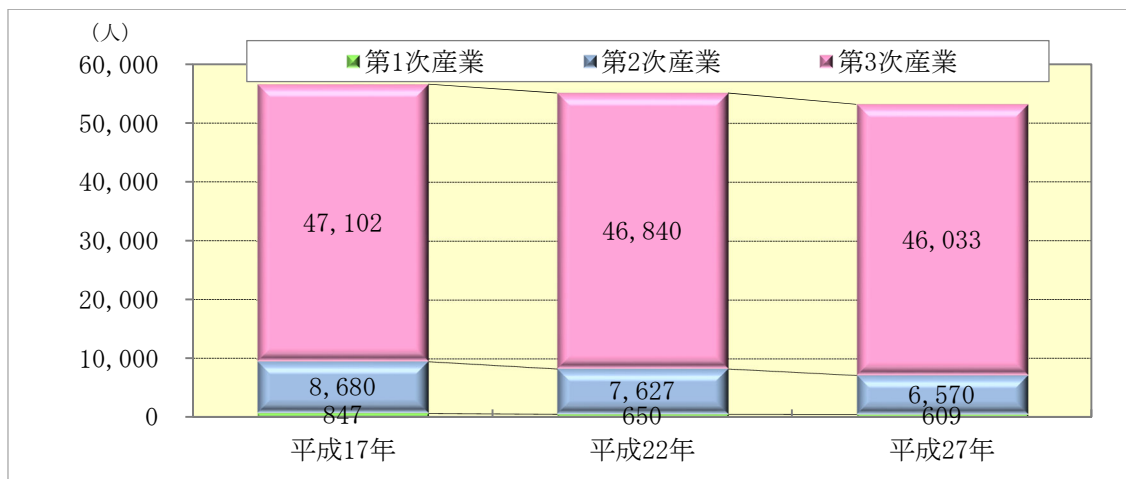
本市の産業別就業人口の推移は、全体的に減少する傾向にあり、産業別でも、第1次産業、第2次産業及び第3次産業とも減少傾向となっています。

表 2-4-1 産業別就業人口

区分	平成17年		平成22年		平成27年		平成27年(大分県)	
	実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)
産業別								
総数	56,629	100.0	55,117	100.0	53,212	100.0	546,167	100.0
第1次産業	847	1.5	650	1.2	609	1.1	36,475	6.6
農業	737	1.3	558	1.0	529	1.0	31,401	5.7
林業	20	0.0	28	0.1	20	0.0	1,743	0.3
漁業	90	0.2	64	0.1	60	0.1	3,331	0.6
第2次産業	8,680	15.3	7,627	13.8	6,570	12.4	121,915	22.3
鉱業	13	0.0	1	0.0	1	0.0	693	0.1
建設業	4,588	8.1	3,746	6.8	3,383	6.4	46,376	8.5
製造業	4,079	7.2	3,880	7.0	3,186	6.0	74,846	13.7
第3次産業	46,102	81.5	44,087	79.9	42,008	78.9	363,361	66.5
電気・ガス・熱供給・水道業	233	0.4	227	0.4	243	0.5	2,613	0.5
情報通信業	631	1.1	661	1.2	665	1.2	6,622	1.2
運輸業、郵便業	2,402	4.2	2,391	4.3	2,058	3.9	22,678	4.2
卸売業、小売業	11,112	19.6	9,748	17.7	8,532	16.0	82,577	15.1
金融業、保険業	1,335	2.4	1,224	2.2	1,080	2.0	11,116	2.0
不動産業、物品賃貸業	817	1.4	949	1.7	1,051	2.0	7,516	1.4
学術研究、専門・技術サービス業	0	0.0	1,145	2.1	1,179	2.2	13,288	2.4
宿泊業、飲食サービス業	6,099	10.8	6,290	11.4	5,682	10.7	32,424	5.9
生活関連サービス業、娯楽業	0	0.0	2,868	5.2	2,480	4.7	18,777	3.4
教育、学習支援業	2,753	4.9	2,740	5.0	2,575	4.8	24,137	4.4
医療、福祉	8,485	15.0	9,222	16.7	10,134	19.0	83,380	15.3
複合サービス業	486	0.9	275	0.5	317	0.6	5,768	1.1
サービス業(他に分類されないもの)	8,939	15.8	3,692	6.7	3,409	6.4	29,622	5.4
公務(他に分類されるものを除く)	2,810	5.0	2,655	4.8	2,603	4.9	22,843	4.2
分類不能の産業	1,000	1.7	2,753	5.1	4,025	7.6	24,416	4.6

[資料：国勢調査（各年10月1日現在）]

図 2-4-1 産業別就業人口





## (2) 農業

本市の農家数は、減少傾向にあり、平成 17 年から平成 27 年の 10 年間の間に 70%程度に減少しています。

耕地面積は、平成 27 年では、田、畑、樹園地の全てが減少し、平 22 年の 82%程度まで減少しています。

表 2-4-2 農業の推移

項目		年次			
		平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	
農業就業人口(販売農家：人)		1,077	806	307	
総農家数(戸)		289	241	210	
販売農家	専業農家	114	113	91	
	兼業農家	第一種兼業	26	24	21
		第二種兼業	149	104	98
	計	175	128	119	

「資料：農林業センサス(各年 2 月 1 日現在)」

図 2-4-2 総農家数の推移

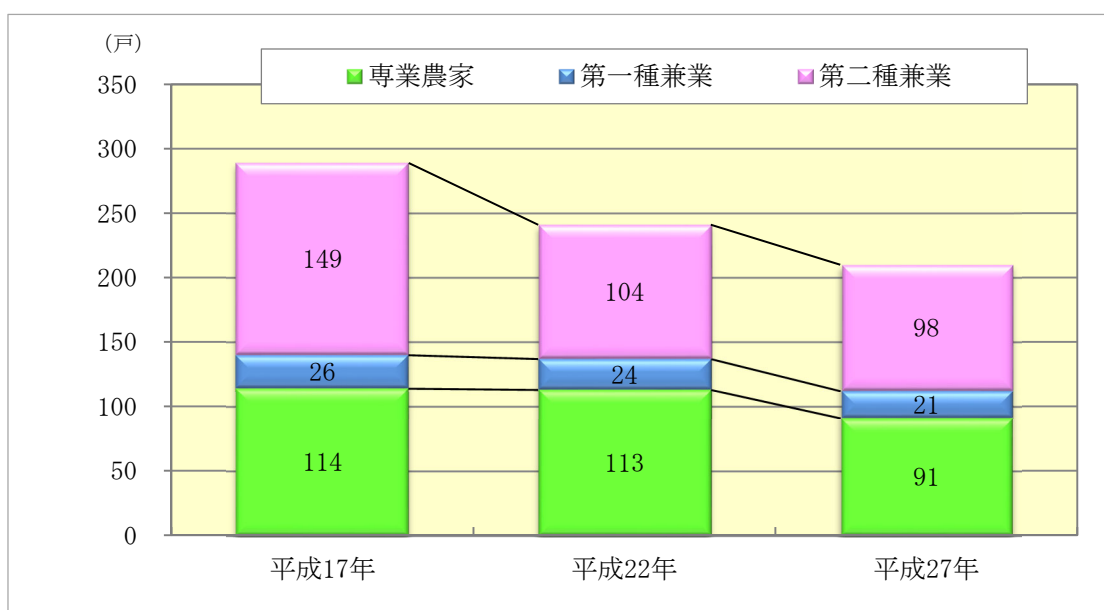


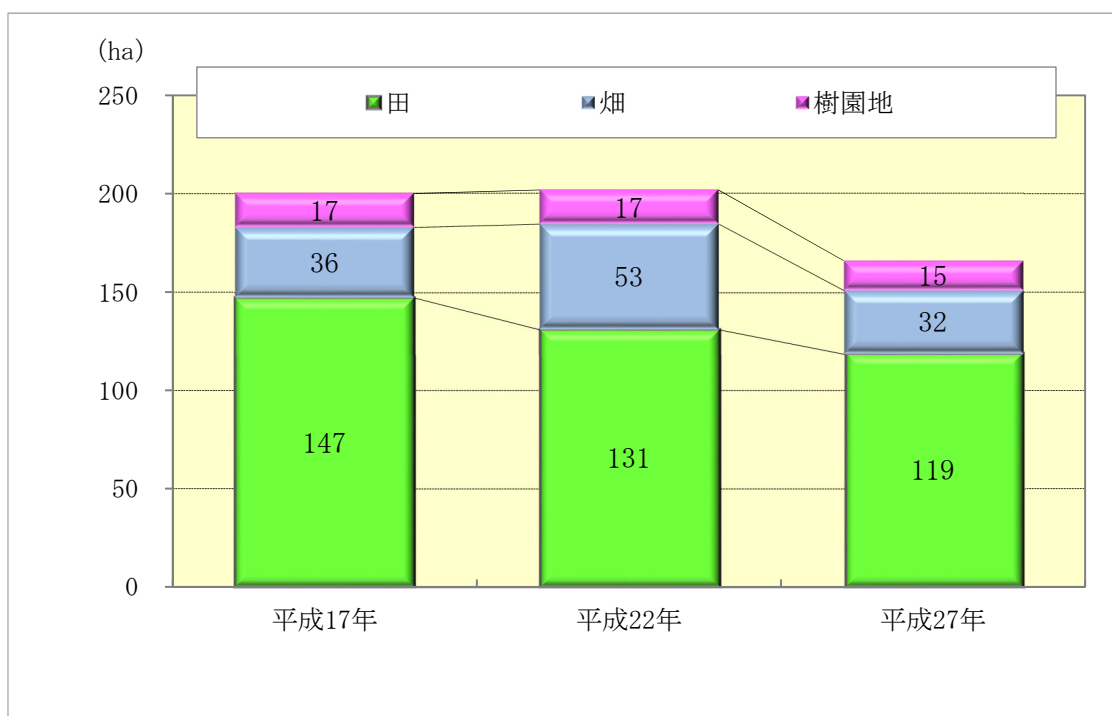
表 2-4-3 耕地面積の推移

(単位：a 平成 27 年より単位：ha に変更)

	田	畑	樹園地	計
平成 17 年	14,735	3,554	1,726	20,015
平成 22 年	13,133	5,315	1,745	20,193
平成 27 年	119	32	15	166

「資料：農林業センサス(各年 2 月 1 日現在)」

図 2-4-3 耕地面積の推移



### (3) 水産業

本市の漁業個人経営体は、減少傾向にあり、平成 20 年から平成 30 年の 10 年間の間に 80%以下に減少しています。

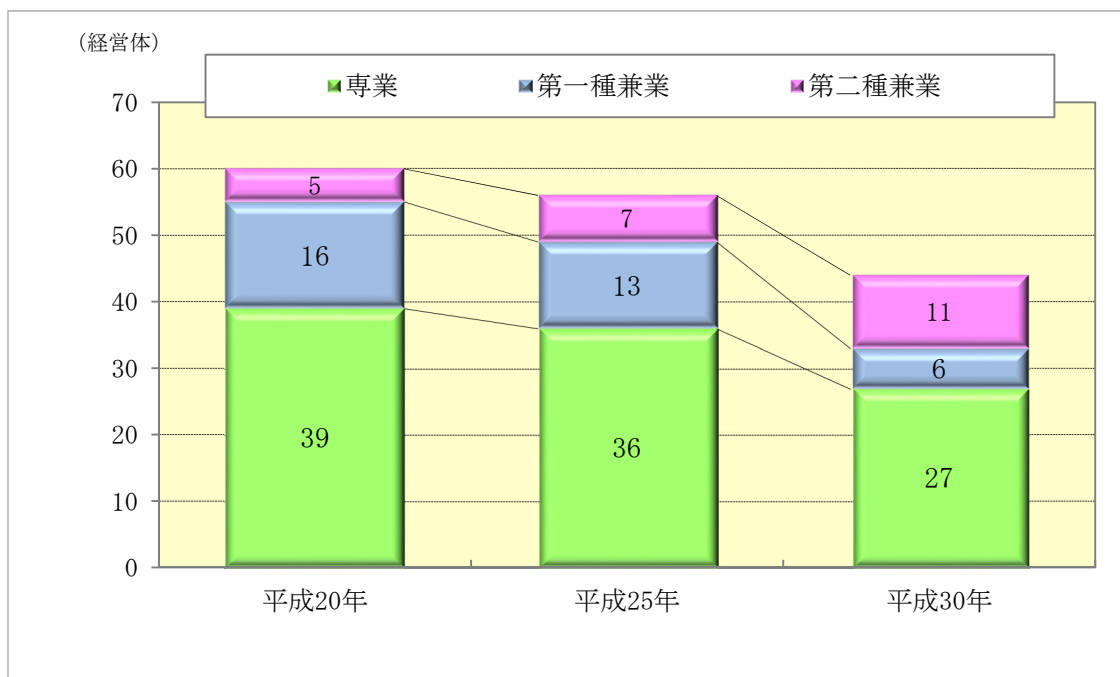
表 2-4-4 漁業経営体の推移

(単位：経営体)

項目		年次	平成 20 年	平成 25 年	平成 30 年
総数			62	58	46
会社			1	1	1
共同経営			1	1	1
個人			60	56	44
	専業		39	36	27
兼業	第一種兼業		16	13	6
	第二種兼業		5	7	11
計			21	20	17

「資料：漁業センサス(各年 11 月 1 日現在)」

図 2-4-4 漁業個人経営体の推移



#### (4) 工業

本市の工業の推移は、事業所数、従業員数については、平成28年には増加しましたが、その後減少しています。

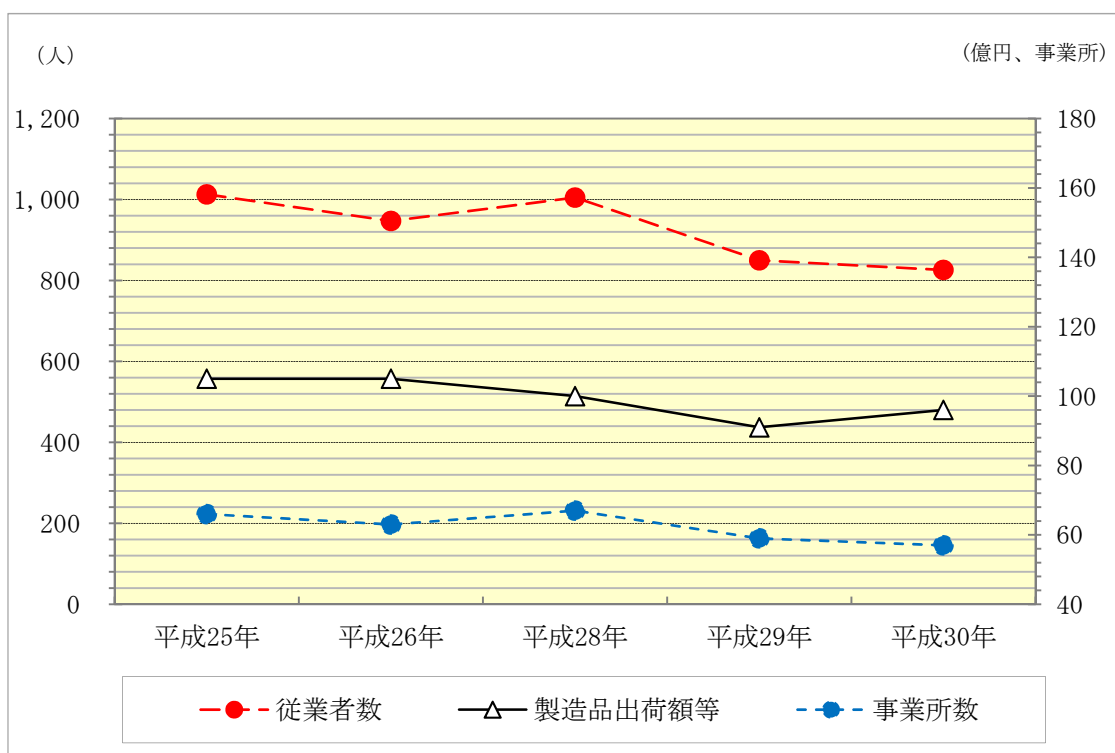
製造品出荷額については、平成26年に増加し、平成28年には再び減少しましたが、平成30年には増加しています。

表 2-4-5 工業の推移

年次	従業者数	製造品出荷額等	事業所数
	(人) ●	(万円) △	(事業所) ●
平成25年	1,013	1,047,855	66
平成26年	947	1,049,088	63
平成28年	1,005	1,001,079	67
平成29年	850	912,360	59
平成30年	826	960,391	57

「資料：工業統計調査（各年6月1日現在）」※26年までは12月末調査、27年は調査中止。

図 2-4-5 工業の推移



(5) 商業

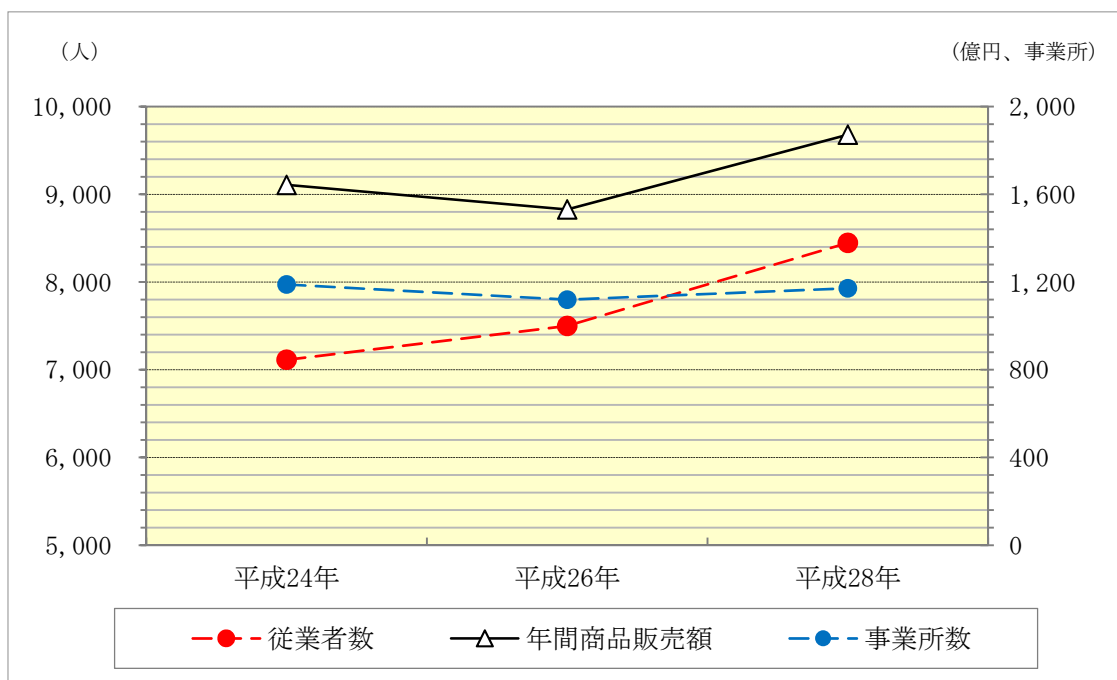
本市の商業の推移は、事業所数はほぼ横ばいで推移しています。商品販売額については、平成 26 年まで減少傾向でしたが、平成 28 年に増加しています。

表 2-4-6 商業の推移

年次	従業者数	年間商品販売額	事業所数
	(人) ●	(百万円) △	(事業所) ●
平成 24 年	7,114	164,255	1,189
平成 26 年	7,500	153,054	1,120
平成 28 年	8,447	187,233	1,172

「資料：商業統計調査・経済センサス」

図 2-4-6 商業の推移



## (6) 観光

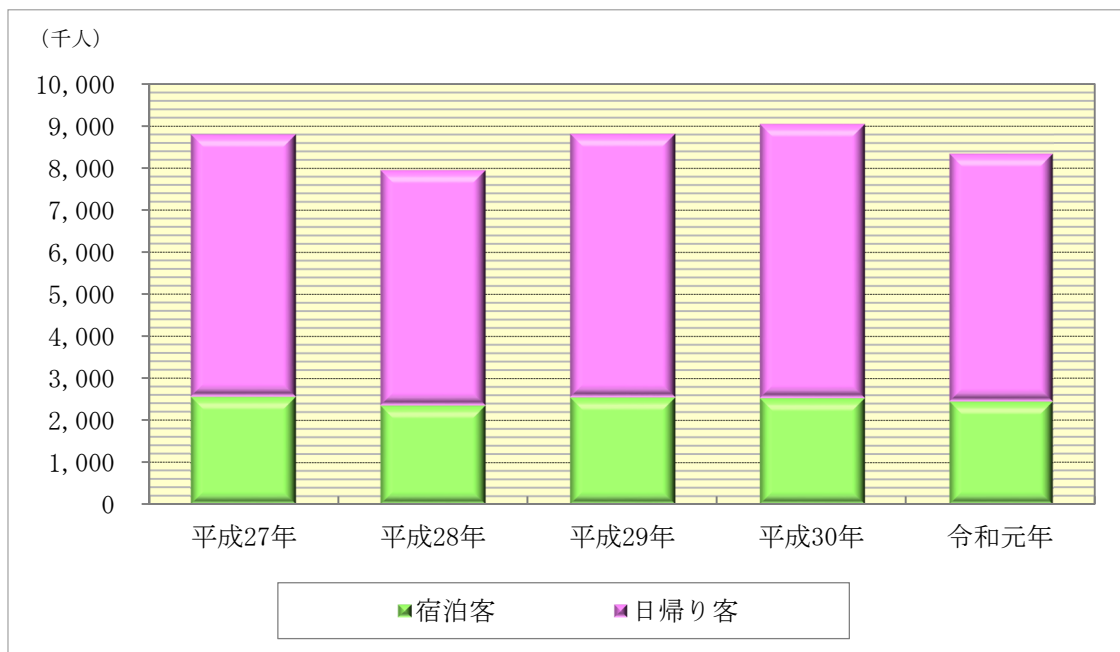
本市の観光客数及び観光消費額は、近年増減を繰り返していますが、観光消費額は令和元年に増加しています。

表 2-4-7 観光客数及び観光消費額の推移

年次	宿泊客	日帰り客	計	(千円)
平成 27 年	2,557,949	6,239,491	8,797,440	96,086,116
平成 28 年	2,348,584	5,595,437	7,944,021	88,273,361
平成 29 年	2,544,330	6,262,548	8,806,878	89,201,959
平成 30 年	2,522,654	6,520,441	9,043,095	86,555,366
令和元年	2,445,285	5,890,488	8,335,773	94,605,356

「資料：別府市観光課」

図 2-4-7 観光客数及び観光消費額の推移



## 5. 土地利用

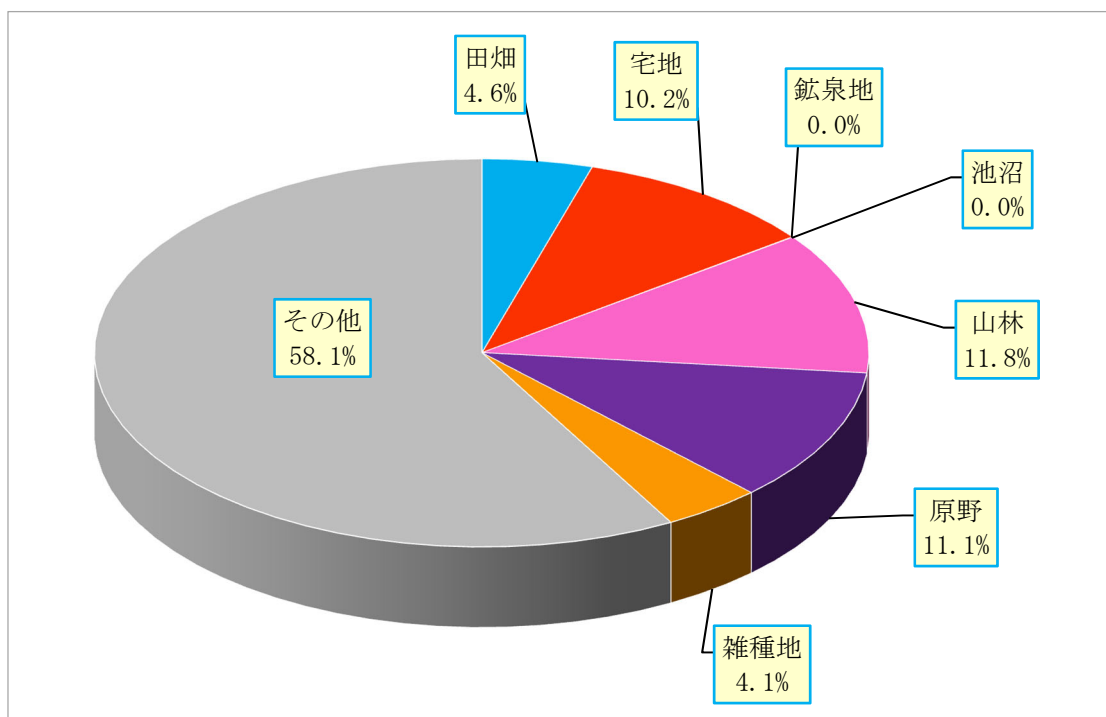
本市の地目別面積の割合は、その他（58.1%）を除くと、山林が 11.8%で最も多く、次いで、原野が 11.1%、宅地が 10.2%、田畑が 4.6%、雑種地が 4.1%となっています。

表 2-5-1 地目別面積の状況

令和元年1月1日現在

地目名	区分	面積 (km <sup>2</sup> )	割合 (%)
総面積		125.340	100.0
田畑		5.763	4.6
宅地		12.793	10.2
鉱泉地		0.014	0.0
池沼		0.025	0.0
山林		14.839	11.8
原野		13.935	11.1
雑種地		5.156	4.1
その他		72.815	58.1

図 2-5-1 土地利用状況



## 6. 関連計画

本計画に関連する別府市の上位計画として以下の計画があります。

### (1) 総合計画

第4次別府市総合計画（令和2年度～令和9年度）では、「地域を磨き、別府の誇りを創生する」ために、本市が将来に向かいめざすべき姿と、その実現に向けた施策の方向性を示しています。

別府市総合計画内における本計画に関連する内容を以下に抜粋します。

また、別府市総合計画の体系図を次ページに記載します。

#### 施策

【環境】自然と共生し、環境への負荷の少ない循環型社会の実現



#### めざす姿

環境への負荷の少ない資源循環型社会が形成されている。



#### 施策の方向性

1. ごみの発生抑制、排出抑制、資源化及び適正処理の推進

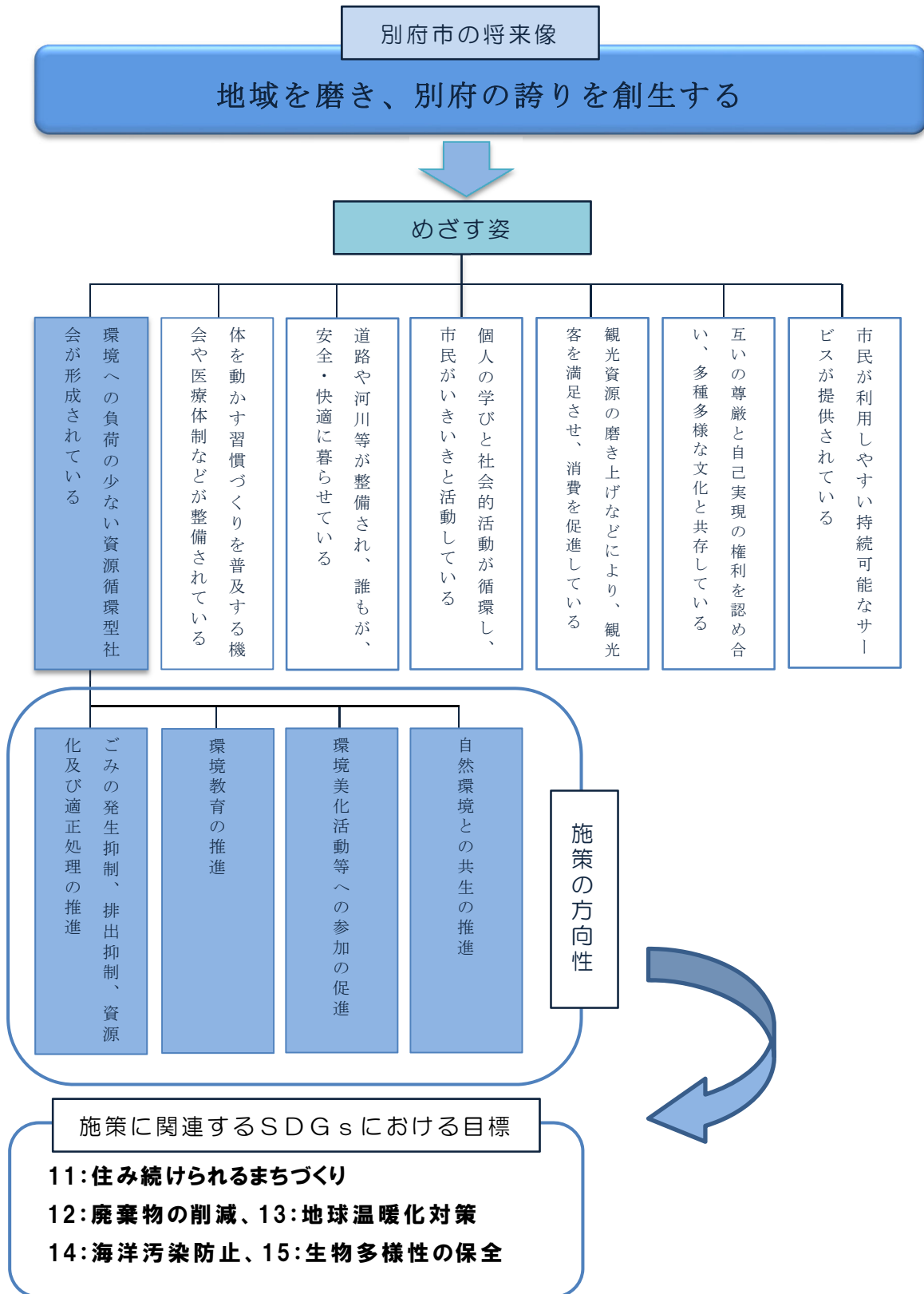
2. 環境教育の推進

3. 環境美化活動等への参加の促進

4. 自然環境との共生の推進



図 2-6-1 別府市総合計画体系



## (2) 環境基本計画

別府市環境基本計画（平成 23 年度～平成 32 年度）では、別府市総合計画と整合を図りながら、「自然・湯けむり・おもてなしが築く環境みらい都市・別府」を別府市の望ましい環境像として、取組を進めていくとしています。

別府市環境基本計画内における本計画に関連する内容を以下に抜粋します。

### 基本目標

限られた資源を大切にし、健康で安心して暮らせるまちにしよう

共に考え、みんなで協働して環境を守り、育てよう



### 施策の方向

資源・エネルギーを持続的に使う

環境を支える人づくり・仕組みづくりを推進する



### 主な施策

資源の循環と有効利用

環境教育・環境学習の推進